

日本比較文化学会第47回全国大会・2025年度国際学術大会プログラム  
共催・香川大学教育学部

日本比較文化学会第47回全国大会・2025年度国際学術大会が香川大学で開催されます。名物の讃岐うどんはもちろん、瀬戸内国際芸術祭の開催期間とも重なりますので、ぜひ多くの方にご参加いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

大会日程：2025年5月17日(土) 10:10～18:10

会場：香川大学教育学部(760-8522 高松市幸町1-1 香川大学幸町北キャンパス)

スケジュール：

5月17日(土)

8:15 受付開始

8:30～9:00 編集委員会(第二会議室)

9:10～10:00 理事会(第一会議室)

10:10～10:15 開会式(415講義室)

10:15～11:00 総会(415講義室)

11:10～12:10 シンポジウム(415講義室)

テーマ：「比較文化の地域性と新たな視点の創造」

12:10～13:00 昼休み

13:00～14:00 講演(ワークショップ)

14:15～15:55 研究発表第1部(各会場)★詳細は別紙

15:55～16:10 休憩

16:10～17:50 研究発表第2部(各会場)★詳細は別紙

18:00～18:10 閉会式(415講義室)

18:30～20:30 情報交換会

会場 香川大学生協 1階 食堂

皆様の交流と各々の研究の研鑽のため、大会終了後、大学生協にて情報交換会を開催いたします。参加費はお一人5,000円です。2025年5月8日(木)までに下記の口座へお振り込みください。

かならず当日参加される方のお名前でお振り込みをお願いいたします。また振り込み手数料はご負担ください。

銀行名：四国銀行

支店名：朝倉支店

口座番号：普通 5149102

名義：日本比較文化学会中国・四国支部

地図・アクセス(<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/access/access.html>)(時刻表リンクあり)

5月17日(土) 日本比較文化学会第47回全国大会・2025年度国際学術大会  
香川大学教育学部(760-8522 高松市幸町1-1)

JR予讃線・瀬戸大橋線・高德線 高松駅下車 ことでんバス

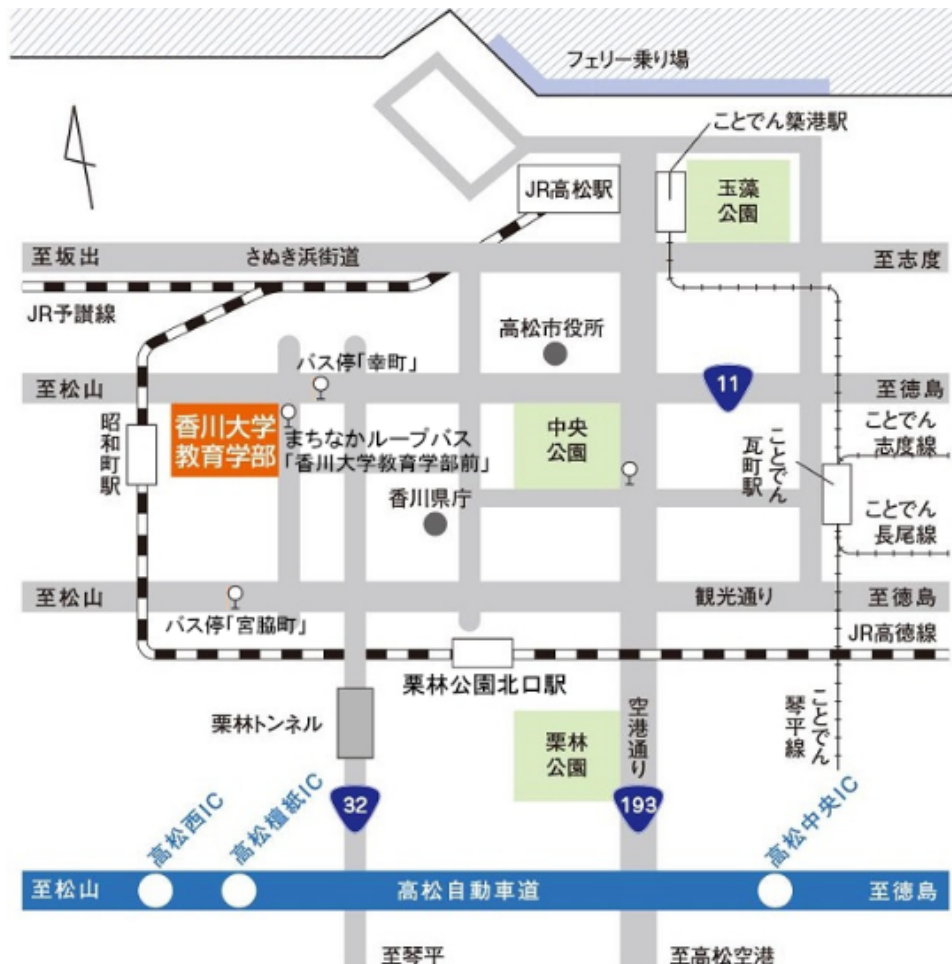
まちなかループバス西回り(約15分) 香川大学教育学部前下車 徒歩約1分

弓弦羽行き・昭和町市立図書館経由(約10分) 幸町下車 徒歩約5分

弓弦羽/香西車庫行き・県庁日赤前経由(約10分) 宮脇町下車 徒歩約7分

JR高德線 昭和町下車 徒歩約7分

JR予讃線・瀬戸大橋線・高德線 高松駅下車 徒歩約20分/タクシー約10分



連絡先：大会実行委員会（実行委員長）：轟木靖子（中国・四国支部長）

garagonokaoka あっとまーく icloud.com (あっとまーく を @ に置き換えてください)

会場	No.	発表者	タイトル	司会
第1会場	413講義室	(1) 代書芸(同志社大学大学院博士前期課程)・山内信幸(同志社大学教授)	中日両言語における「言いさし」表現の対照研究—声調の視点から見る使用実態について	高橋栄作 (高崎経済大学教授)
		(2) 佐古恵里香(流通科学大学特任講師)・山内信幸(同志社大学教授)	プレゼン特授受の場面における視線位置と言語表現の選択に関する一考察—日本語母語話者と中国人・ベトナム人日本語学習者のデータ比較を通じて—	
		(3) 陳志文(台湾・国立高雄大学東アジア言語学科教授)	現代日本語における四字漢語の構造について—名詞用法を中心に—	
		(4) 付潤爽(同志社大学大学院博士前期課程)・山内信幸(同志社大学教授)	中国人日本語学習者の複合動詞の産出に関する習得研究—品詞構造の視点から母語転移を考察する—	佐古恵里香
		(5) 大谷鉄平(北陸大学専任講師)	オンラインコミュニティでの投稿における文末表現—Discordにおける投稿と「キャラ」	(流通科学大学特任講師)
第2会場	311講義室	(1) 菅野瑞治也(京都外国語大学教授)	名誉の概念と決闘を強要する社会—フォンターネの『エフィ・ブリスト』を手がかりにして—	八尋春海 (西南女学院大学教授)
		(2) 林裕二(西南女学院大学教授)	Kazuo Ishiguro: "Come Rain or Come Shine"の翻訳における二人称についての考察	
		(3) 東本裕子(横浜商科大学教授)	『赤毛のアン』における女性の自己表現の変容	
		(4) 張潔麗(同志社大学大学院博士前期課程)・山内信幸(同志社大学教授)	日中動物に関する慣用表現の翻訳—『紅樓夢』を中心に—	林裕二 (西南女学院大学教授)
		(5) 王子涵(同志社大学大学院博士後期課程)・山内信幸(同志社大学教授)	日本で魯迅作品を読む(Part 2)—魯迅小説の受容と翻訳について—	
第3会場	312講義室	(1) 蒙英臻(広島大学大学院博士前期課程)	森嶋外のデスマスク考察とその行方—嗚外のデスマスクはなぜとられたのか—	
		(2) 柳澤佳(同志社大学外国人留学生助手)・山内信幸(同志社大学教授)	谷崎潤一郎作品における「塔」	藤山和久 (広島経済大学准教授)
		(3) 矢島真澄美(東北大学大学院国際文化研究科GSICSフェロー)	同一著者の文章表現に連続性が存在するのか?—文体類似性の時間差比較を通じて—	
		(4) 相馬法仁(茨城県笠間市役所・職員)	英国人写真家フェリーチェ・ベアトの写真表現とその位置づけ—英国人画家チャールズ・ワーグマンとの比較—	
		(5) 横道誠(京都府立大学准教授)	旧茨城県庁舎内部の装飾分析—当時欧米で流行したデザインと比較して—	広池真一 (北洋大学兼任講師)
第4会場	422講義室	(1) 蘇文博(総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程)	当事者研究と当事者批評	
		(2) 葉奕(台湾・淡江大学日本語学科准教授)	文人筆談における「雅」と「俗」—黄遵憲筆談資料を中心に—	伊月知子 (愛媛大学准教授)
		(3) 曾秋桂(台湾・淡江大学日本語学科教授)	村上春樹『一人称単数』における未来へのメッセージ	
		(4) 橋本恵子(福岡工業大学短期大学部准教授)	「死の文学」と言われた村上春樹文学と「グズグズした生」を肯定した村上春樹文学との距離—処女作『風の歌を聴け』から1980年代までの創作群から見て—	
		(5) 浜本隆三(甲南大学准教授)	計量テキスト分析による大隈重信の女子教育に関する演説談話の一考察—「夫婦共稼ぎと女子の学問」を中心に—	佐藤慶治 (鹿児島国際大学准教授)
第5会場	423講義室	(1) 井原彩輝(同志社大学学部生)・山内信幸(同志社大学教授)	ハンナ・リデルの訃報記事に見る回春病院の欧米ネットワーク	
		(2) 程天武(同志社大学大学院博士前期課程特別学生)・山内信幸(同志社大学教授)	昭和の日本における女性表象の変遷—映像コンテンツからの考察—	
		(3) 山本茉莉(びわこ学院大学非常勤講師)・山内信幸(同志社大学教授)	国語教育における助詞「は」の教授法に関する一考察	二村洋輔 (名城大学助教)
		(4) 白鳥絢也(常葉大学准教授)	仮定条件文におけるモダリティ制約について—「と・ば・たら・なら」を中心に—	
		(5) 那須野絢子(常葉大学外国語学部専任講師)	アメリカの歴代大統領3名のインタビューにおける人称代名詞itの使用傾向—「when it comes to X」構文に着目して—	大岩秀紀 (関西外国語大学教授)
第6会場	428講義室	(1) 高橋暖(筑波大学博士後期課程単位取得退学)・李静怡(筑波大学博士後期課程)	わが国の教育課程の変遷を見つめる(2)—特に「平成」(前半)の学習指導要領に注目して—	
		(2) 柴田香奈子(東京大学助教)	「鏡」モチーフが語る表象とドッベルゲンガー—ワイルド・芥川・太宰・ハーンの分裂する自己—	
		(3) 森下一成(東京未来大学教授)	憂鬱な心、心配事の私—井伏鱒二の『山椒魚』	伊藤豊 (山形大学教授)
		(4) 松井夏津紀(京都先端科学大学准教授)・森岡千廣(京都先端科学大学嘱託講師)	坂本龍一における晩年性について	
		(5) 塩田英子(龍谷大学特任准教授)	社会の周縁から信仰の役割を問う	
第7会場	526講義室	(1) 庄妍(神戸大学大学院博士後期課程)	仏教葬儀の市場化と消費者の行動—真言宗における引導作法をもとに—	
		(2) 長田元(岐阜聖徳学園大学准教授)	ポップカルチャーと伝統文化の交差点—アニメを活用した文化理解と言語習得—	樋口謙一郎 (椋山女学園大学教授)
		(3) 大野雅子(帝京大学教授)	ハジチ文様にもみるメトニミー—呼称の解釈と俗信に注目して—	
		(4) 董航(環太平洋大学専任講師)	多文化的教育環境における生成AIの導入と課題—フランスの大学を事例として—	
		(5) 郭潔蓉(東京未来大学教授)	中国武俠作品の日本語字幕に関する研究—マルチモーダル談話分析の枠組みをもとに—	中村友紀 (関東学院大学教授)
第8会場	525講義室	(1) 譚梓怡(同志社大学大学院博士前期課程)・山内信幸(同志社大学教授)	総合計画における港町文化の位置づけの変遷について—石川県七尾市を事例として—	
		(2) 吳翰辰(同志社大学大学院博士前期課程特別学生)・山内信幸(同志社大学教授)	18世紀英国における紅茶—消費文化と女性視視が交錯するとき—	
		(3) 祁雅麗(同志社大学大学院博士前期課程)・山内信幸(同志社大学教授)	異文化高齢者の生活実態と支援ニーズに関する予備調査—神戸市における事例研究—	佐藤和博 (弘前学院大学客員教授)
		(4) 橋尾晋平(名古屋外国語大学専任講師)	新たな経済の担い手としての高度人材の獲得と課題—高度人材獲得に向けた取り組みに関する一考察—	
		(5) 洪心怡(台湾・高雄科技大学応用日語系教授)	中国人日本語学習者におけるマルチメディアによるオノマトペの習得—アニメ視聴の実証実験を通じて—	西川祥一先生 (北洋大学教授)
			中国人日本語学習者における「ナガラ」の習得に関する一考察	
			リーディングにおけるボトムアップ処理の向上を目指した初年次英語教育の精読の授業に関する一考察	北林利治先生
			台湾人学習者による日本語二重母音の発音特徴について—長音との比較を通じた持続時間の分析—	(京都橋大学教授)

- (1) 14:15-14:45
- (2) 14:50-15:20
- (3) 15:25-15:55
- (4) 16:10-16:40
- (5) 16:45-17:15
- (6) 17:20-17:50

発表時間は質疑応答を含め30分です。発表20分、質疑10分を目安にご準備ください。